

# 海外生活 レポート 41



佐々木 敏子さん



ベルギー王国、アントワープ在住

皆さん、こんにちは。私はベルギー企業の日本法人及びベルギー本社での勤務を経て、現在はアントワープを拠点に通訳・翻訳を含め、日欧間ビジネスのコミュニケーションを円滑にする事業をしています。

## 複雑な小国・Heart of Europe

ベルギーは、車でちょっと走るとすぐにオランダやフランスの国境という小さな国ですが、なかなか複雑です。公用語は、オランダ語、フランス語、ドイツ語の3言語もあり、私の住むアントワープはオランダ語圏に属します。アントワープから電車でブリュッセル方面へ向かうと、最初はオランダ語だった車内アナウンスが、途中からフランス語に切り替わります。日本では外国の国名をカタカナ表記にする際、できるだけ現地語の発音にあわせてありますが、「ベルギー」という表記は、オランダ語での発音を採用していると思われる。小国ながらも、EUやNATOの本部が置かれ、Heart of Europeとして、その存在感を発揮しています。

# アントワープの2020



オリンピック100周年記念ロゴ



オリンピック100周年記念コイン

## INFORMATION

### ベルギー王国

|    |                       |     |                                   |
|----|-----------------------|-----|-----------------------------------|
| 面積 | 30,528km <sup>2</sup> | 公用語 | オランダ語<br>(フラマン語)<br>フランス語<br>ドイツ語 |
| 人口 | 1,149.2万人             |     |                                   |
| 首都 | ブリュッセル                |     |                                   |



## アントワープとオリンピック

東京オリンピックは残念ながら延期となりましたが、実は2020年はアントワープにとっても特別な年なのです。1920年にアントワープでオリンピックが開催されてから、ちょうど100年、様々な記念行事が計画されています。1920年のオリンピックには、日本を含め29カ国から約2600人の選手達が参加。近年のオリンピックは規模も予算も超拡大してしまい、アントワープのような小都市ではもう開催は無理なので、この機会を100周年記念のスポーツイヤーとして街を盛り上げようという企画です。公式ロゴもデザインされ、2.5ユーロの記念硬貨も



1920年オリンピックのポスター



市内1000所に吊るされた金メダルプロジェクト。見つけるとよいことが。

発行されています。東京オリンピックは延期ですが、「Tokyo 2020」という大会名は維持されるようなので、アントワープでのイベントも何らかの形で実現できればと思います。

## アントワープの新名所



ザハ・ハデイド氏設計の港湾局ビル

東京オリンピックと言えば、新国立競技場の設計も話題になりました。ザハ・ハデイド氏の案がコンペで勝ったのに白紙撤回されてしまいましたが、その彼女が設計したのが、アントワープ港湾局のビルです。旧消防署だった伝統的な建物に、近未来的なデザインを組み合わせさせた案には、やはり賛否両論あったようです。アントワープの主要産業である港湾事業とダイヤモンド取引をイメージしたこの建物は、工期も工費も大幅に超過して完成にこぎつけましたが、今では新たなランドマークとして人気を博しています。夜はライトアップされ、まさにダイヤモンドのような輝きを放っています。残念ながら、完成直前にザハ・ハデイド氏は急逝されてしまいましたが、このビルのある広場は「Zaha Hadid Plein」と名づけられています。



夜のビルはダイヤモンドのよう。

## 外国人インタビュー

24

# 洗足学園音楽大学ミュージカルコース教授 ダイアナ・ボール・石山さん



アメリカ出身



ダイアナ・ボール・石山さん

ダイアナ・ボール・石山さんは、アメリカのカリフォルニア州出身。1983年にアメリカから来日し、その後劇団四季「キャッツ」のオーディションに合格。入団して約7年間、さまざまな舞台に出演しました。現在は、洗足学園音楽大学のミュージカルコース教授を務めるほか、自ら主宰するダイアナ石山SONG & DANCEミュージカル教室で、3歳から大人までを対象に英語の演劇指導を行い、川崎横浜市内だけでなく外国を含めたさまざまな国際イベントへ参加しています。

## 川崎市の魅力を教えてください。

川崎市は、外国の人や文化などを積極的に受け入れている街だと思います。以前、子どもが通っていた川崎市立小学校で、外部講師として、4年間、小学校の「総合的な学習の時間」の英語指導などに携わっていました。また、都心へのアクセスがよく、静かで落ち着いた住環境も整っていますね。勤務先のキャンパスがある溝口は、来日した1983年に比べてだいぶ新しくなりました。古き良きもバランスよく残してあるのがいいです。できれば、映画館があるといいですね!

## 演劇を学びはじめたきっかけを教えてください。

私には重い病気を患う姉がいて、姉の体調を良くしたい思いで、大学では医学・生物学を学んでいました。しかし、大学3年生の時に姉が亡くなり、その出来事が改めて自分の将来を考えるきっかけとなりました。昔からダンスや演劇が好きだったことから、自分の適性と向き合い、演劇を学びはじめました。

## ミュージカルの魅力とは何でしょうか。

ミュージカルは演劇であり、コラボレーションです。他者と共同でよい作品を作るためには、演技そのものだけでなく、政治や社会のこと、文化や芸術などの教養も幅広く学ぶ必要があります。よい役者になるため、こうしたたくさんの学びや出会いがあることがミュージカルの魅力の一つだと思います。



ミュージカル教室のメンバー

## 子どもの教育に力を入れているのはなぜでしょうか。また、日本の教育と母国アメリカの教育との違いはありますか。

「人生は、成長の連続」と教えられ、自分及び周囲の学びを大切にしてきました。子どもの誕生がきっかけで教育への関心が高まり、仕事としても関わるようになりました。我が子と同じように、若い時からさまざまな価値観にふれ、感性を育ててほしいという思いで、教育に力を入



大学の活動の様子

れています。大学に関していえば、日本とアメリカの教育に以前ほどの違いはなく、双方の教育の特徴は重なるところが多くなっていると思います。日本の中学・高校は、進学に力をとて強く入れていることが特徴だと思います。その中で、最近の大学生は、文章そのものに書かれていないことを読み取る力、積極的に人と関わる力、さまざまなテーマに取り組み、考えたことを表現する力などが伸びていると実感します。今後も、学生一人ひとりが、小さい時から学びの選択肢を広げ、たくさんのご経験をしてほしいです。

## 子どもたちや学生に伝えたいことはありますか。

心を開いて、周りを見て、周りから学んで、自分の心で自分の人生を決めること。周りのみんなと同じ道(人生)を歩むことはできないから、好きなこと、やりたいことを見つけて前向きに自分の道(人生)を進んでほしいです。それを私はミュージカル・教育を通して応援していきたいと思っています。

親子それぞれが演劇に関わることで共通の話題を持ち、離れすぎず適度な距離を大切にしたい子育てについて語っていただきました。これからも「We are all one」(私たちは一つ)を合言葉に、さまざまな価値観を受け止め、豊かな感性が息づく川崎をつくり続けてほしい。そうエールを送ってインタビューを終えました。(取材・文:編集ボランティア 正一 努)

## INFORMATION

